

～ようこそ考古学～

第5回 テーマ ナウマン象に出会った石器たち
—3万5千年前の石器制作跡か?—

日時: 1月18日(金) 19:00~20:30

場所: かながわ県民センター 301 会議室 (横浜駅西口徒歩5分)

講師: 畠中 俊明 (かながわ考古学財団)

費用・定員: (費用)無料 (定員)90名(応募者数が定員を越えた場合は先着順)

申し込み方法: 往復はがき又はメールに行事名、氏名、住所、電話番号を明記して、かながわ考古学財団
野庭出土品整理室へ 〆切 1月7日(当日消印有効)



地域巡回展 - 相模川中流域の遺跡展 -

テーマ 古代相模の川辺の暮らし

日程: 海老名市開催 2月20日(水)~25日(月)

厚木市開催 2月27日(水)~3月3日(月)

開場時間: 9:00~17:00 <2月29日(金)のみ 17:30 まで>

場所: 海老名市開催 海老名市文化会館(小田急線・相鉄線・JR線「海老名」駅より徒歩5分)

厚木市開催 厚木市勤労福祉センター(小田急線「本厚木」駅より徒歩5分)

展示内容: 相模川をはさんだ海老名市と厚木市の低地遺跡のパネル写真展示・出土遺物展示

費用: 無料

その他: 講座 第6回 ようこそ考古学 テーマ:「相模川流域に広がる遺跡」を開催

日時: 2月29日(金) 19:00~20:30

場所: ヤングコミュニティセンター(本厚木駅徒歩5分)

講師: 宮坂 淳一 (かながわ考古学財団)

費用・定員: (費用)無料 (定員)90名(応募者数が定員を超えた場合は先着順)

申し込み方法: 往復はがき又はメールに行事名、氏名、住所、電話番号を明記して、
かながわ考古学財団 野庭出土品整理室へ
→申し込み受付開始 1月18日 〆切 2月15日(当日消印有効)

主催: (財)かながわ考古学財団

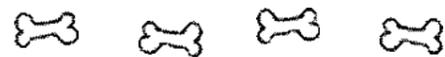
共催: 海老名市教育委員会/厚木市教育委員会



遺跡からは牛や馬などの骨や、時には人の骨が出土することがあります。これらは土の中から出てくると泥だらけです。それを綺麗にしなくてはなりません。骨を乾燥させ、馬毛歯ブラシでクリーニングします。

毛の柔らかさが一番適しているんですね。

歯だけでなく、骨にも優しいです。



バックナンバーは、ホームページからダウンロードできます。

お申し込み
お問い合わせ

(財)かながわ考古学財団 野庭出土品整理室
〒234-0056 横浜市港南区野庭町1660 E-mail: fukyu@kaf.or.jp
TEL: 045-842-9888 (平日 8:30~17:15) FAX: 045-842-9904

考古学財団発掘帖

2007
3号

かながわ考古学財団情報誌 通巻3号

平成19年12月22日発行 年4回発行



伊勢原市 No.160 遺跡 (いせはらし なんばーひやくろくじゅう いせき)

小田急線伊勢原駅の北北西約2kmのところに位置し、丹沢山地の裾野にひろがる標高約50mを測る台地上に立地する遺跡です。古代面(奈良~平安時代)の発掘調査では、これまで50軒以上の竪穴住居跡や10棟以上の掘立柱建物跡などが発見されており、大きな集落があったことがわかりました。

写真の遺物は銅製の鍔帯金具という遺物です。今回、一軒の竪穴住居跡から10点まとまった状態で出土しました。鍔帯金具とは、古代の役人や貴族が儀式等の際に着用した、鍔帯(腰革帯)に取り付けられる各種金具のことです。金具の内訳は、役人のベルト飾りである巡方が4点、丸鞆が6点です。近畿地方の出土例などと比較すると、これらは一連の鍔帯に取り付けられていた可能性が高いものといえます。

県内では、このようにまとまって出土したのは初めてであり、貴重な発見といえます。

目次

- 発掘現場・出土品整理インフォメーション
- 茅ヶ崎市: 上ノ町遺跡
- 鎌倉市: 極楽寺旧境内遺跡
- こんなものでたよ
- 湘南新道出土の兄弟瓦
- 考古学ミニコラム
- 縄文土器の古さ
- くいず
- 行事案内
- かながわ考古学財団入門講座
- 地域巡回展



(財)かながわ考古学財団

〒232-0033 横浜市南区中村町3-191-1
TEL 045-252-8689 FAX 045-261-8162 URL <http://www.kaf.or.jp>

発掘現場・出土品整理 インフォメーション

ぼくは川尻中村遺跡(相模原市)のはちまき土偶はっちです。発掘調査や出土品整理中の遺跡の紹介をします



上ノ町遺跡 (かみのまちいせき)

(所在地)	茅ヶ崎市	(時代)	近世・中世・奈良・平安時代 古墳時代	(調査期間)	2006年4月～ 2007年4月
-------	------	------	-----------------------	--------	---------------------

上ノ町遺跡はJR茅ヶ崎駅から北西約2.5km、相模川から東へ約2kmほど離れた、小出川周辺の水田より少しだけ高い場所にあります。一般国道468号(さがみ縦貫道路)建設事業に伴い調査されました。

古墳時代から近世まで各時代の遺構が発見されていますが、中心となるのは中世と近世です。近世では畑地や墓地として使われていたようですが、近世中期から後期の溝から完全な形のブタの骨が発見されています。当時、肉食の習慣はないのでブタは飼育されておらず、きわめて貴重な資料だと判明しました。

中世は特に戦国時代の遺構が多く、大小の溝で囲まれた掘立柱建物跡や井戸、土坑などが確認されました。過去の調査成果と合わせると、この一帯が当時の大集落であったことがわかっています。戦国時代の集落からはかわらけ、常滑焼、瀬戸焼、中国陶磁、砥石、五輪塔などが出土している他、井戸から完全な形に近い桶や小刀が出土しており、注目されます。

ブタの骨
(2006年6月)



極楽寺旧境内遺跡 (ごくらくじきゅうけいだいせき)

(所在地)	鎌倉市	(時代)	中世	(調査期間)	2007年5月22日～ 2007年6月27日
-------	-----	------	----	--------	---------------------------

鎌倉における急傾斜地崩壊対策工事に伴う発掘調査は、工事中発見のやぐらなども含め、一年のうちに多くの遺跡で行われています。

遺跡は極楽寺から北東に延びる馬場ヶ谷の中ほどに位置し、隣接地は一昨年、昨年と発掘調査を行っています。これまでにやぐら1基、やぐら前面遺構、崖下遺構群、平場の発掘調査を行い、地業面、溝、ピットなどが見つかりました。

調査区はやぐら部分と、その前面に展開する崖裾部分に分かれます。やぐらは玄室から前庭部までが完全に遺存していました。やぐらの玄室は4.25×4.5mの方形でした。前庭部からは遺物が多く出土し、陶器、石鍋、鉄製品などが出土しました。

崖裾部分は、やぐら前面と、それより一段高くなる調査区南端に分けられます。やぐら前面は、おおまかに2段階の造成の状況が分かりました。ひとつは、岩盤を削り出して平坦面を構築した当初の造成、もう一つは、岩盤土造成によるスロープの構築です。スロープ上からは、やぐら前庭部の出土遺物とほぼ併行する時期の陶器類やかかわらけが出土しています。

崖下遺構群
(2007年6月)



こ っ な も の で た よ

～湘南新道出土の兄弟瓦～

軒瓦の前面のことを通称「顔」と呼んでいます。顔の文様は、仏様の象徴である蓮の花をあしらった模様が用いられ、これを『蓮華紋』と呼びます。

瓦の顔は、木製や陶製の范型という型で作られています。特に木製で作られた范型は、粘土を詰め込んで作る為、だんだん傷んでいくことがあり、あちこちに傷ができてきます。中には傷んだ范を補修して長い期間使用しているという事例もあり、建物の軒先を飾る瓦の顔がとても大事にされていたことが伺えます。



神奈川県内でもいくつか同じ顔の組み合わせがあります。今回、湘南新道関連遺跡で出土した軒丸瓦の顔と同じものが、海老名市にある相模国分寺・国分尼寺、茅ヶ崎市にある七堂伽藍寺(七堂伽藍跡)、そして平塚市の国府域、の三カ所で確認されています。これらは同じ場所に傷があることから同じ范型を使用したことが考えられ、言いかえると『瓦の兄弟』ということができます。

古代のある時期、国の中心となっていた場所で同じ顔を使う。その背景に何があるのか、これから考えていきたいと思います。

考古学ミニコラム 第3回

考古学のホットな話題や資料の見方を取り上げたり、講座等で多く寄せられた質問に答えます。

ー縄文土器の古さー

縄文土器はいつ頃から作られていたのでしょうか？縄文時代は暦や文字記録がないため、その年代は主に放射性炭素年代測定法で推定されています。大気中や動植物の体内には、放射線を出しながら崩壊する炭素14(質量数14の炭素。通常の炭素は質量12)が一定濃度存在しますが、動植物は死ぬと体内の炭素14濃度が減少し、5568年で半減します。この性質を利用し、炭素を含む試料の炭素14濃度から試料の年代を算出するものです。近年は加速器質量分析(AMS: Accelerator Mass Spectrometry)で微量試料の測定が可能になりました。現在最も古い年代は、青森県大平山元I遺跡の土器に付いた炭化物5点の年代で、今から13780±170年～12680±140年前と出ています。この放射性炭素年代は年輪年代との対比により補正(較正)が必要とされ、欧米の研究例を適用すると、大平山元遺跡の土器は今から15500～16000年前になります。この較正年代値は従来考えられていた縄文時代開始年代より3000年ほどさかのぼるものです。大気中の炭素14濃度は地域差があり、欧米の研究をそのまま適用することは問題がある、という意見も出されています。



えっ、歯ブラシ！
何に使うんでしょ～か？



こたえは次のページ